

紹介

江武戸の浜にはまゆゆうを

— 何野浦史談会の活躍を推賞する —

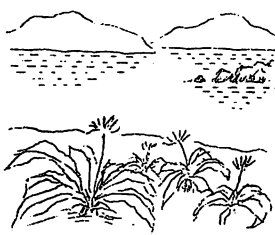
蒲江の浦々は、県下では最高のはまゆゆう（浜水錦）の自生地であつたが、ここ十数年未砂の採集と、津によるはまゆゆうの掘取りなどで、ゆきやい数が少なくなつた。

これをむげい左何野浦史談会（会長富沢泰氏）の面々は、入津湾の入口に近い江武戸神社の前浜一帯に、つい先日総数五千本の苗を植込む大事業をなすとげた。

感じ入つたことは、その事業を決して自分たちだけでせず、漁協に依頼してブルドーザーの機械力を投入、灌木やどんちくの征伐は青年団に頼み、整地作業には婦人会や小中各校PTAの協力を求め、老人会や上入津中島の生徒の皆さんによつて、苗の植付けをさしていぬに行なつたということである。この協力の姿はうらわしい。

蒲江高校のはまゆゆう先生と仇名されている下先生、その先生と一体となつて種集めに励んだ高校生のクラブ活動が先行し、これに眼をつけた取上げた富沢会長の、創意と推進に志して二十人ばかりの史談会員が結束して立ち上つた。昨年来、拾い集めたはまゆゆうの種を蒔いて育てたのが数千本の苗であつた。

神武天皇ご寄泊の傳承の江武戸の浜、数百年の海浜に、孤白のはまゆゆうが競い咲く日は遠くない。遠足も海水浴にやつて来る幼稚園児や小学生中學生にとつては、どこにもまさるはまゆゆうの浜になる。何野浦の史談会は、よいことぞしたものである。



披露

受賞慶祝

— 佐伯史談会関係者の叙勲も受賞 —

さきに本会の賛助会員安部弥右衛門氏(世)が、多年郵政事業に尽瘁、叙勲の光栄に浴されたが、去る十一月三日文化の日を中心に、わが佐伯史談会の会員次の数氏が、いろいろな面での勲功が認められて、受賞・叙勲のことが発表された。

ここに心からそのご功労をたたえ、今後はますますご健勝でご指導がいたされますよう、紙上からお祝い申し上げます。

受賞者名簿

順不同、日氏年令順

氏名	内容	付記
大塚 富吉氏 (八十二才)	大分合同新聞文化賞	元小菅校長、多年郵土史料、特に書家面談の資料を集め、研究し、その著述多し。 (大分市中島中島町)
曾宮 衛吉氏 (七十六才)	卓越技能賞 (労働大臣)	大工棟梁、特に堂宮建築にくわしく、三ヶ丸橋の修築に当たられた方、技師卓越 (直川村下直見)
富沢 弥策氏 (七十三才)	水産業功労 (大分県知事)	元県会議員、水産行政に尽瘁、真珠養殖業の導入並にその發展に功勞す (何野浦出身、佐伯市)
清田 義雄氏 (七十才)	勲三等 旭日中綬章	元大宮教授、多年芸術教育の祖當、大宮教育に功勞あり。 (佐伯市東区)
藤田 勇一氏 (七十二才)	勲五等 瑞宝章	元小菅校長、教育事務所長、元佐伯市会議員、 (佐伯市稲垣区)

(以上)